

「有限会社 木佐貫鉄工所」

ステンレス製

養豚用ゲージの

加工体制を確立し

地域の畜産に貢献

衛生面の観点から腐食に強いステン
レス化が進む養豚用ゲージ。これまで
主流だった鋼材に比べて数倍硬く加工が
困難なため同社は対応に困窮します。
そのピンチを救ったのは新たに導入した
バンドソーマシンでした。



代表取締役

木佐貫 昌治

きざぬき まさはる



最新鋭バンドソー
マシンでステンレス
加工も何のその。

20 年ほど前に国内屈指の畜
産設備メーカーとの取引
を開始し、現在は畜産資材の鉄
鋼加工製作を専門に行う同社。
熟練工による高精度の加工技術
によって取引先との信頼を築い
てきましたが、近年は対応仕切
れない案件が増えてきたとい
います。

「2010年の口蹄疫発生以
来、畜産資材の衛生面が重要視
されるようになりました。当社
が主に加工している養豚用ゲー
ジにおいてもそれは同様で、感
染対策として腐食に強いステン
レスが使われる頻度が増えてき
たんです。ただ、ステンレスは
鋼材より数倍硬いので、既存の
設備では切断加工が難しかった
んです。何とか手作業で対応し
てはいたのですが、時間もコス
トも見合うものではありません
でした」

ステンレスを扱えないと仕
事が減っていくとの危機
感から、同社はステンレス材を
切断できるバンドソーマシンを
導入します。

「導入の成果はステンレスを加
工できるようになっただけでは
ありません。取引先からは納期
短縮・高品質化・低価格化とい
う宿題を課せられていたのです
が、この機械によってすべてを
解決することができました。さ
らに、木佐貫さんをお願いすれ
ば間違いない」という言葉まで
いただけるようになり、スタッ
フのモチベーションもあがりま
した」

バンドソーマシンの導入に
よって得られた信頼はことのほ
か大きく、新たな取引先の獲得
にもつながったといいます。
「今後もこの機械を生かしてさ
らなる売上の増加、そして地域
への貢献ができるよう頑張っ
ていきたいですね」



複数本を束ねて切断で
けるので、作業効率の
良さはこれまでとは比
べものになりません。



材料をセッティングして
必要な本数と寸法を
入力すれば後は自動で
切断されるので、機械に
付きっきりになる必要が
ありません。



雑菌が多くて腐食しやすいゲージの根元部分だ
けをステンレス化するという要望も多いのだそう
です。



ものづくりへの想い

当社ではゲージの現場設置
まで行っているのですが、そ
の際に畜産農家のみなさん
から「木佐貫さんがつくった
ゲージはやっぱりいいね」と
言われるのが一番うれしい
です。

今後の展望

バンドソーマシンは自動制御で動くので並行して別の作業
ができるようになりました。その余力を生かして、牛用の
ゲージなど新たな分野にもチャレンジしていきます。

case

11

金属製品製造業

有限会社 木佐貫鉄工所

設 立:2002年

代表取締役:木佐貫 昌治

資本金:300万円 従業員:5名

事業内容:鉄骨工事一式、製缶一式、
豚・牛舎柵加工一式の設計施工

〒886-0005

宮崎県小林市南西方5942-13

TEL.0984-27-1444

FAX.0984-27-1453

ものづくり
補助金活用
ココが
ポイント!



作業と材料の無駄を大幅にカット

製造コストが

32.2%
ダウン

手作業でステンレス材を切断して
いた当時は仕上がり寸法にバラツキ
があり、長ければ微調整、短ければ
廃棄していたのですが、その手間や
無駄がなくなりました。

